

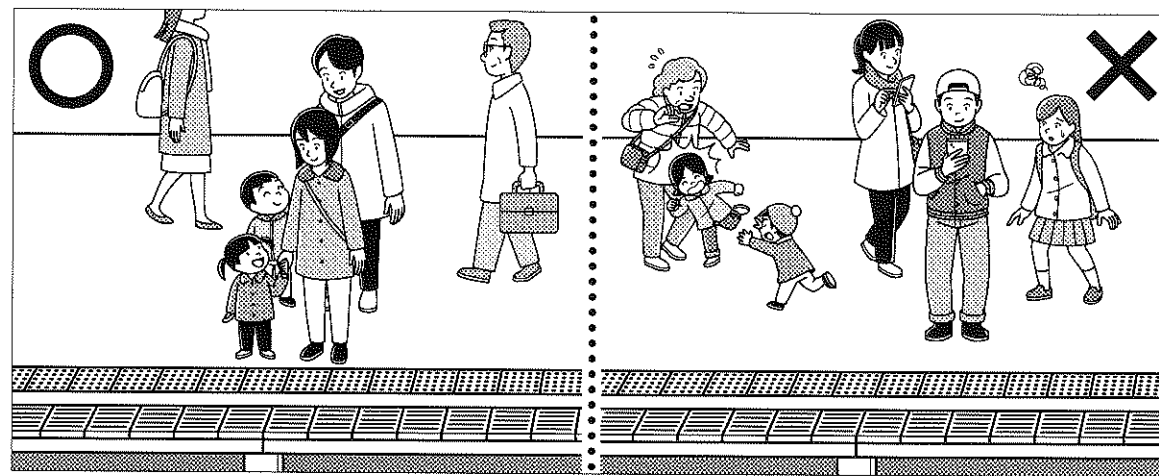
あんぜんだより

監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子先生

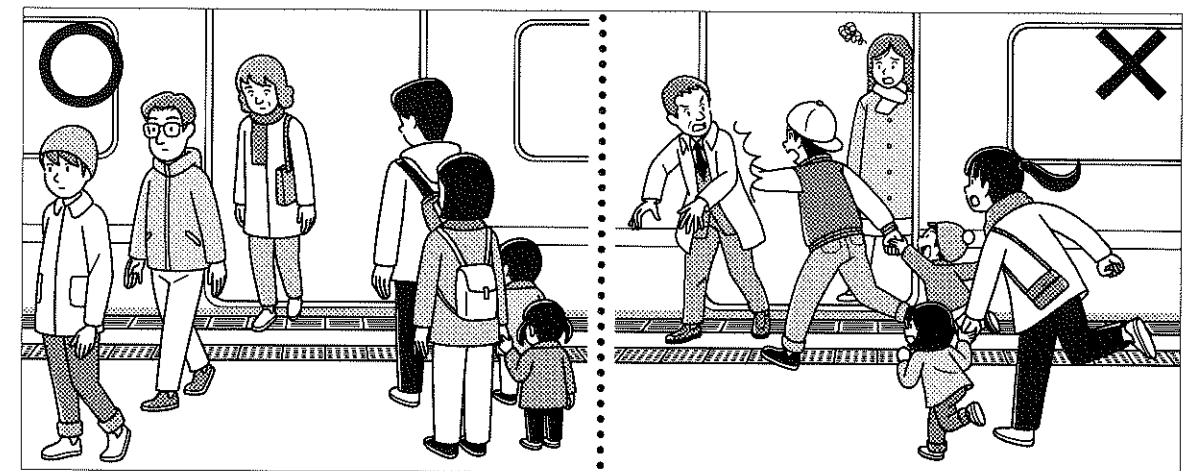
鉄道は誰もが気軽に利用できる交通機関ですが、ルールやマナーを守らないと、思わぬ事故やけが、対人トラブルを引き起こしてしまいます。公共の場所であるということを意識して、自分たちだけではなく、周囲の人も気持ちよく、安全に過ごせるようにしましょう。



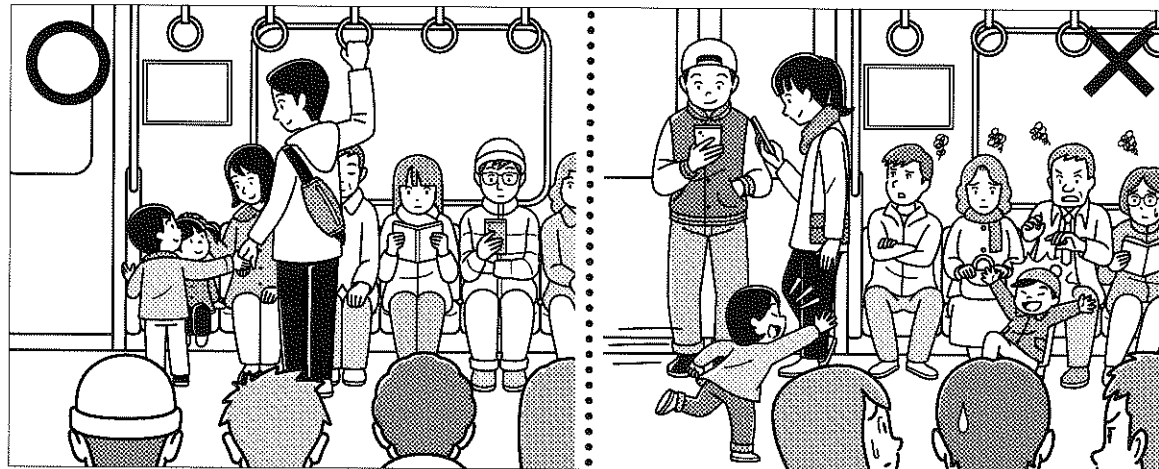
鉄道を安全に利用するためのルールとマナーを身につけましょう でんしゃに のる ときの やくそくを まもって あんぜんに のろうね



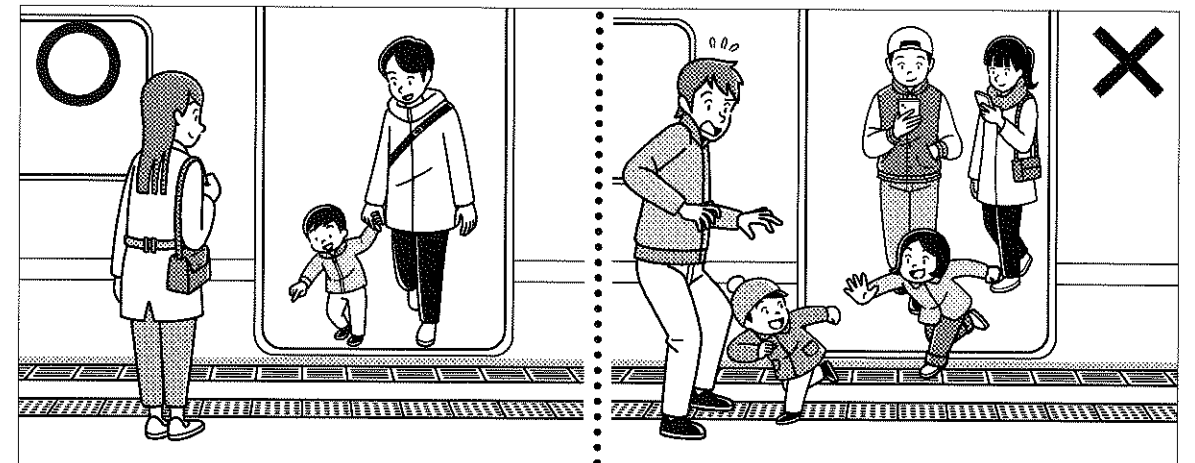
せんの うちがわで でんしゃが くるのを しずかに まつ。



おりる ひとが すんでから じゅんばんに のりこむ。



てすりを つかんで たつか あいた せきに すわる。



まわりと あしもとを よく たしかめながら おりる。

保護者の方へ 電車の到着を待つときは、ホーム上に引かれた点字ブロックの線よりも内側で、乗車位置の表示に従い、整列して待ちます。ホームドアが設置されている駅では、寄りかかったり、外に身を乗り出したりしてはいけません。乗り降りは、我先にはではなく順番を守り、後ろの人がつかえないよう、前の人に続いてスムーズに行きます。乗車中は、空席があれば座り、立つ時にはしっかりと手すりをつかみます。自分たちだけではなく、周囲の人も気持ちよく、安全に過ごせるように気を配りましょう。

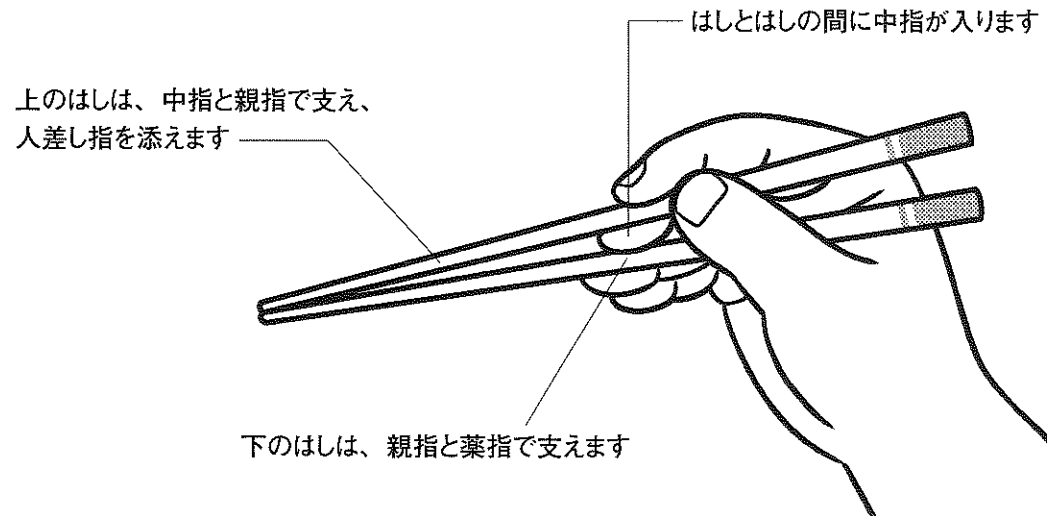
3月号では「道路を歩くときの約束」について取り上げます。

たのしくたべようニュース

はしと茶わんを上手に持とう

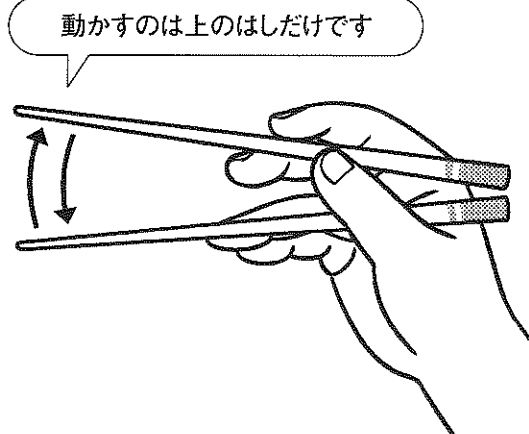
乳幼児期は、食事の時に手づかみから、スプーン、はしを使って食べるように成長していきます。子どもたちは、食卓でのおとなのはしの持ち方や、茶わんの持ち方を見て、まねをしながら覚えていきます。おとながまず、正しい見本を見せながら、子どもたちに正しい持ち方を伝えていきましょう。

はしの持ち方



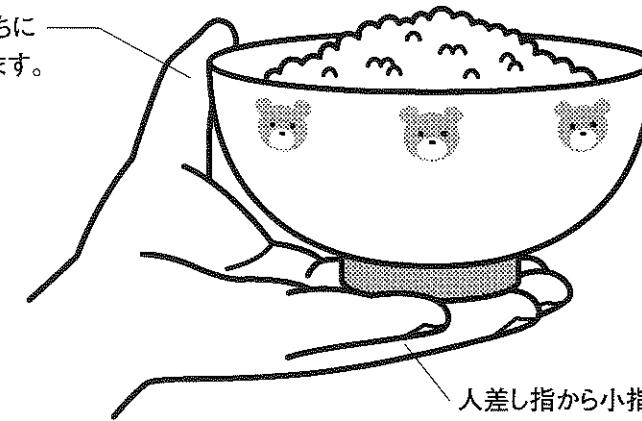
はしの使用は、手指機能が発達し、指先に力が入れるようになる、3歳頃からは望ましいようです。4～5歳になると、徐々に上達していきます。

はしを選ぶ場合には、子どもの手(中指の指先から手首のつけ根まで)より2～3cm長いもので、木製で丸くない、角のあるものの方が使いやすいでしょう。



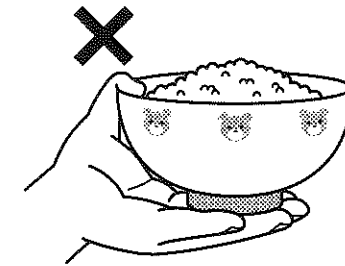
茶わんの持ち方

茶わんのふちに親指をかけます。



人差し指から小指の4本をそろえて、糸底を支えます。

子どもに使わせる茶わんの大きさは、子どもが手を開いて親指で茶わんのふちを、そのほかの指で糸底を持つことができるものを選ぶようにしましょう。



親指を茶わんの中に入れてはいけません。

はしで

いろいろなものはさんでみよう



小さく切ったスポンジや毛糸などで試してみましょう。

2月3日は節分

節分とは、もとは立春や立夏、立秋、立冬の前日のことで、季節の変わり目を指していました。しかし、やがて立春の前日だけをいうようになりました。節分に豆まきを行うのは、豆には霊力があると信じられていて、豆をまくことで、病気や災いを追いはらうという意味があります。

